

出直し市長選挙の結果についての見解

今回の出直し市長選挙の意義は、特別区の区割り案を一つに絞り込んで、夏までに大阪都構想の設計図をきちんと描き、住民投票に判断をゆだねることについて賛否を問うことでした。都構想自体に反対していた自民、みらい、共産の会派は対抗馬を立てることもなく、実質選挙をボイコットし、橋下市長が再選されました。

マスコミは、選挙結果について、「史上最低の投票率」、「民意を得たことにならない」等と批判しています。しかし、選挙前からこぞってマスコミが大々的に大義のない選挙と報道し続け、また、反対する会派が候補者を立てず、有権者に選択肢を示さず、さらに、有権者からも結果が分かっている選挙とのご意見を頂くといった前例のない選挙戦において、ダブル選挙以前の歴代の市長並みの 377,472 人の票を頂きました。平成に入って7回行われている市長単独選挙の中でみると平成3年の西尾市長（再選）、平成11年の磯村市長（再選）に次いで3番目の高いものです。

今回の選挙に対する評価は様々ですが、今回の票数で信任を得られていないとすれば、これまでの大阪市長はほとんどが信任を得ていない中で市政を運営してきたことになります。

我々は今回の出直し市長選挙において、都構想それ自体の信任を得たとは判断しておりませんが、夏までに都構想の設計図を作ること、そして住民投票に判断をゆだねることについては市民の皆様からの信任を得たものと認識しております。今後は、市民の皆様とのお約束を果たすためにこれまで以上に精力的な活動を続けて参ります。

「得票数の比較」

